

テーマ「看護にデザイン思考を取り入れたワークショップ ～看護・ケアの課題発見と解決に向けて～  
 高大連携教育を通しての学び」

カテゴリー：④連携

1. 学校概要：学校名：学校法人温知会 仁愛高等学校 所在地：福島県会津若松市鶴賀町1番5号  
 課程名：准看護師課程（高校3年）・5年一貫看護師課程（高校3年）  
 1学年定員数：40名・40名 就業年限：3年・5年

内 容：生徒が医療現場における人々のニーズ・問題を“発見する力”や“解決する力”を養うことを目的に、会津大学・会津短期大学部・仁愛高校・NOP 法人多文化互恵創造ネットワークの連携により令和4年度より始まった。対象は高校2年生。探求や臨地実習の科目で、4回のワークショップを通して「デザイン思考」を学んだ。（表1参照）同時に看護教科ではバイタルサイン測定を学び、臨地実習で初めて患者さんを受け持ち、日常生活の援助を行った。その時の患者さんとの関わりからプロトタイプ（製品）を作成した。

	ワークショップ内容	生徒の臨地実習内容
第1回 6/14	問題発見のための手法	6・9月臨地実習 受け持ち患者さんの観察したこと、発見した問題についてまとめる
第2回 9/16	真の問題を定義するための手法	
第3回 10/21	問題解決のためのアイデア創出 プロトタイプの作成手法	11・12月臨地実習 患者さんの問題や援助方法について、より深く考え、アイデアを出し合いプロトタイプを作成する
第4回 2/3	検証結果の発表、改善点の検討	
発表会 3/9	プレゼンテーション	

【表1】

ワークショップでは、大学の講義室で、大学生と一緒にグループワークを通してデザイン思考について学んだ。大学生のリードのおかげで、活発な話し合いから様々なアイデアが生まれ、試作品を作成できた。生徒にとっては現行デザインされている介護補助具について知ることができ、どのような工夫があるのかという学びにもつながった。臨地実習では受け持ち患者さんの情報をとるだけで精いっぱいだが、患者さんの発言がすべてではなく、本当はどうしたいのか、患者さんの本心を観察やインタビューから導き出し、振り返りを行い学びが深まっている。

【実際の成果物】



【生徒の感想】最初は先生の助けがないと話し合いが進まなかったが、最後には自分たちで話し合いを進め積極的に意見を出し合えた。／患者さんの今後の生活が安全に過ごせるように商品を考えるのは大変だったが、しっかり考えることができた。次回の実習に活かしたい。／最初の話し合いは皆の意見が出ずにイライラしたが、自分の話し方や態度で意見が出ないかもと見直すことができた。人をまとめる力を大きく成長させることができた。

【生徒アンケートの分析】ワークショップ終了後に生徒にアンケートを実施した結果、主体性、働きかけ力、柔軟性についての評価が高かった。グループワークを通して他人の意見を尊重する姿が見られ、また自主的に役割を引き受けることができていた。最後の発表では、他のグループの発表を見てさらにいいものにしようと取り組む様子があった。

## 「学校自慢（特色のある学校のとりくみ）」

1) テーマ 「金曜日はフリースタイル学習 self learning day」

2) カテゴリー：③ 教育方法（授業・演習・実習など）

3) 学校概要 学校名：厚木看護専門学校  
所在地：神奈川県厚木市松枝2-6-5  
課程名：3年課程  
1 学年定員数：80名  
就業年限：3年

4) 内容

当校は第5次改訂指定規則の新カリキュラムで103単位2730時間と時間数を減らし、「看護学校は忙しい」という常識を変え、余裕をもって看護教育に取り組める環境を志向した。

今年度から1・2年生の登校日を月曜日～木曜日の週4日とし、金曜日は自分の成長のための時間、「フリースタイル学習 self learning day」（写真1）を開始した。

学生が、どこで、誰と、どのように、何を学ぶのかを自ら計画し、実践していく。

学生の取り組み内容としては以下のようなものがある。

主な 内容	科目の課題学習
	予習・復習
	技術練習
	国家試験の学習
	補習課題
	チューター面接・学習支援
	基礎学力向上のための学習塾（当校開塾）への参加
	ダブルスクール生（放送大学併学者）の大学科目履修
	ボランティア活動
	インターシップへの参加
	興味・関心のあるものの探究

self learning day を学生が有効に活用できるように、国語や数学の基礎学力を支援する塾の開講や、科目の学習や国家試験対策についてはチューターの教員を中心に取り組む予定である。また、シミュレーションルーム（写真2）を常に開放し臨床に近い演習を行える環境を整えている。モチベーションを高める仕掛けを行い、学生が学びたいと思える事を提供する環境を整える努力をしている。



写真1



写真2 シミュレーションルーム



テーマ「学生と教職員の交流 ～ピザパーティー～」

カテゴリー：⑤その他（学生・教職員の交流）

学校概要

学校名：新潟県厚生農業協同組合連合会 佐渡看護専門学校

所在地：新潟県佐渡市千種 121 番地

課程：3年課程 1学年定員数：40名 修業年限：3年



### 【内容】

令和元年より学生と教職員の交流を目的にピザパーティーを始め今年度で6年目となる。ピザ窯は学校長が設計し制作したものである。学年を超えた学生間の交流の他、教職員との交流の場として毎年数回ずつ開催している。

教職員がこの会を企画運営している。地元の野菜を職員が持ち寄り、市販のピザに野菜をトッピングシアレンジをしている。ピザ窯の火力を調整しながらピザを焼くのは学校長が努め、終始ピザ窯の前で多い時には40枚程度のピザを一人で焼き上げ、学生に振舞っている。

この時は学校長ともコミュニケーションがとれるチャンスであり、学校長の回りに学生が集まり普段は聞けないような様々な会話を楽しんでいる。また、教職員とも授業や実習以外の会話ができることでお互いを知る時間となっている。このような時間を共有しながら学生の状況を把握し、ストレスによる体調不良や学校生活の悩みやつまづきを早期に知りその後の対応にもつながっている。

このパーティーでは、上級生が下級生に対して焼けたピザを運ぶ姿や、裏方として動く教職員の手伝い、食べ終わったゴミの後片づけを率先して行う行動が見られる。このように、自然と他学年の学生や教職員への気遣いが生まれている。

何より、学生も教職員も同じ時間を楽しく過ごすことで同じ看護を学ぶ者同士の一体感を感じられる時間となっている。



【ピザを焼く学校長と学生】  
自然と学校長の回りに学生が集まり会話が始まる



### 佐渡看護専門学校におけるピザパーティーの効果

- ①学生間、学生と教職員のコミュニケーションを通じた人間関係の構築
- ②学生も教職員も同じ時間を楽しく過ごし、ストレス発散
- ③学生の新たな一面を知り、学生の持っている力を活かした学生指導への活用
- ④学生の悩みやメンタル不調に対する早期発見と早期介入



テーマ :成長と学びを支えるカリキュラム『学習支援論』

カテゴリー:③教育方法(演習・実習)

学校概要 :学校名:福井県立看護専門学校 所在地:福井県福井市四ツ井2丁目 8-1

課程名:3年課程 1学年定員数:40名 修業年限:3年

内容: 1952年(昭和27年)創立の歴史ある当校では、他学年との交流を深めるために縦割りグループでの学校行事運営を行うとともに、演習および基礎看護学実習において看護技術や実習記録の指導を上級生が一部担ってきた。これらの上級生下級生間指導を2022年の看護基礎教育カリキュラム改正から、成長と学びを支える『学習支援論』として科目設定した。

### 科目の概要

目標: 1. 自ら探求し、学びを深めて、知識と技術を身につける (1・2・3年生)

2. お互いの意見を尊重しながら、グループ目標に向かって 協働していく姿勢を身につける (1・2・3年生)

3. 技術指導を通して、他者の学びを支えると同時に、自らも学ぶ姿勢を身につける(2・3年生)

3つの目標をそれぞれに Ideas(基礎知識)・Connections(つながり)・Extensions(応用)の3段階の到達目標を掲げ、3年間を通して成長するための課題として設定した。

### 授業運営の実際

	学習支援論Ⅰ (1年生)	学習支援論Ⅱ (2年生)	学習支援論Ⅲ (3年生)
9月		洗髪・足浴・車椅子移乗/移送・寝衣交換	洗髪・足浴・車椅子移乗/移送・寝衣交換 指導
10月		基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学実習Ⅱ記録等 指導
11月	バイタルサイン測定技術	バイタルサイン測定技術 指導	
	基礎看護学実習Ⅰ		基礎看護学実習記録等 指導

1～3年生を縦割り班としてグループを編成し、1年生は入学直後から他学年と交流を図っている。学習支援論ではその縦割り班を使って年間を通して上級生下級生間での指導を行う。

下級生は基礎看護学実習を控える時期からバイタルサイン測定技術や日常生活援助技術を練習し、学習支援論の授業時間に上級生から指導を受け、技術試験の準備を行う。上級生は指導計画を立てて、下級生指導の準備を行う。一連の学習過程の中で、他者の学びを支えると同時に自らも学ぶ姿勢を身につけ、社会人基礎力の向上を目指す。

### 授業後の学生の声と評価

上級生からは「教えるだけでなく自分で考えるように導くのが大変だった」「事前準備と十分な知識がないと指導はできないと分かった」など指導する上での困難を感じる意見や「下級生に根拠や理由を聞くことが大事」「病棟での実習経験と根拠を合わせて伝えると理解してもらえた」など指導の工夫につながる意見が見られた。また「領域実習を乗り越えてきた自分たちの成長を感じた」「技術の根拠について再確認できる良い機会だった」という意見から、学びの深まりや再学習の機会となることがわかった。下級生からは「自分たちで気づけなかったことを教えてもらい技術を向上させることができた」「実習の体験を教えてください、より実践的な技術になった」という意見が多く、次年度に向けて「先輩みたいに指導できるように技術を身につけたい」「先輩は知識豊富で格好良かった。自分ももっと勉強を頑張りたい」といった、今後のビジョンにつながる意見もみられた。上級生下級生ともに「楽しかった」「交流機会になった」「技術試験がんばって合格してほしい」などの肯定的な意見が見られた。これらから、それぞれの目標に対して、学生は各段階を経て確実に成長していると考えられる。

### 今後の展望

新カリキュラム3年目となる今年度は、すべての学年で学習支援論の授業を実施する。目標である3つの力を身につけるために、授業後の学生の声から課題を見出し、ブラッシュアップしていきたい。



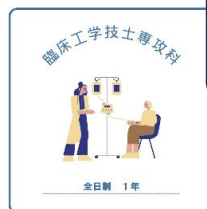




テーマ: **多職種連携で学校改革 未来プロジェクト**  
 ~若手の力で学校のピンチをチャンスにかえる!~  
 カテゴリー:⑤その他(学校改革)  
 学校概要:学校名-京都保健衛生専門学校  
 所在地-京都市上京区千本通竹屋町東入主税町 910 番地

自分たちの学校は自分たちの手で改善する!

本校は、看護学科三年課程、臨床検査学科(昼間3年・夜間4年)、臨床工学技士専攻科(1年)をもつ学校です。校長以下看護学科教員11名、臨床検査学科・臨床工学技士専攻科教員12名、事務職員8名の計32名で学校運営をしています。入学人数の低下をはじめ、学校経営が困難になっていく中、管理者だけが学校経営を考えるのではなく、教職員の声を経営に反映させようと2023年2月に若い教職員で将来構想をざっくばらんに考える会【未来プロジェクト】を立ち上げました。【未来プロジェクト】では学科の垣根を超え、自由な発想で教育を語り、アイデアを出し合い将来構想について検討してきました。検討内容を理事会に報告し、承認を得て全教職員で学校改革に取り組んでいます。教職員が自由に語り合う中で、「自分たちの学校は自分たちの手で何とかしよう!」と話し合い「まだまだできることがある!」と希望が見えてきました。教職員が元気→学生が元気→学校が元気の好循環を期待しています。



プロジェクト①  
SNS 広報活動を強化



看護学科歓迎・送迎会の方法を  
検査学科に取り入れよう!

看護学科のおもてなしの心を検査学科へ



様々な経験を積んできた教職員の  
多職種連携で多様な学びを追求する

プロジェクト②  
各科で培った教育を共有し、より良い教育へ



プロジェクト③  
医療職をあきらめない取り組み

- 看護学科と臨床検査学科の単位互換科目を増やせないか検討しよう!
- 大学と連携し、学生のキャリアを支援しよう!
- 医療系専門学校の最終学年で中途退学を考えている方への臨床工学技士専攻科への進学について情報提供をしよう!

内容が難しい!検査の学生さんすごい!自分たちも頑張らないと

第一臨床検査学科3年生の  
研究発表会へ看護学科  
2年生が参加!

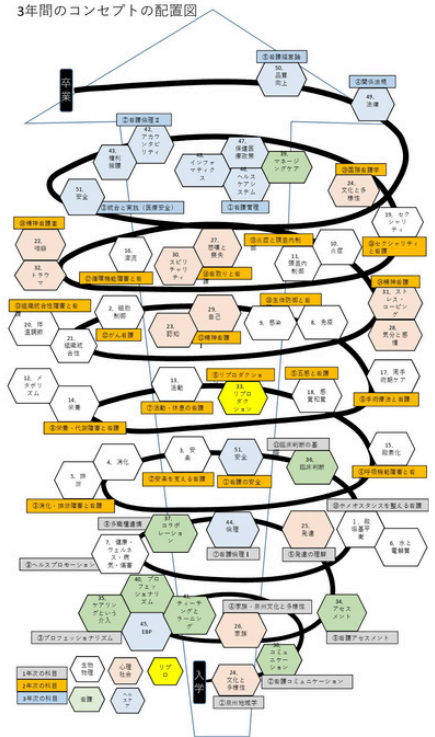
# 全国初！コンセプトに基づく カリキュラムをとりいれた看護教育

**【学校概要】**  
 名称：泉佐野泉南医師会看護専門学校  
 住所：大阪府泉佐野市湊1-1-30  
 課程：3年課程  
 1学年定員：40名  
 就業年限：3年  
**【カテゴリー】**  
 教育内容

## ✎ コンセプトに基づくカリキュラムとは？

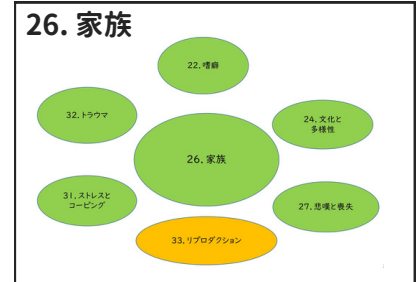
今までのカリキュラムをPearsonの51個のコンセプトに振り分け、コンセプト間の関連・繋がりを基軸に学ぶ学習方法のこと。旧カリキュラムの断片的な知識を学ぶ方法とは違い、分野ごとに学んでいた内容をコンセプトによってまとめることができるため、より深い学びに繋げることができる。

授業の特徴	実習の特徴
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が主体で学ぶ</li> <li>・先生はファシリテーター的存在</li> <li>・アクティブ・ラーニングが主体 (グループワークなど)</li> <li>・教科書は辞書として使う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床判断モデルが軸</li> <li>・実習記録は大学ノートで自由記載</li> <li>・学生自身の気づきを尊重し、学生が自分で目標を軌道修正する</li> </ul>



コンセプトを一枚にまとめたもの

## 🏠 コンセプト



## 🏠 フィールドワークの様子



## 暮らしを知る実習 実習先

地域包括支援センター  
 訪問看護ステーション など

## 授業例：家族・泉州文化と多様性 (1年次・30時間)

### 🏠 目的と狙い

1. 生活の場としての地域を理解できる
2. 個人・家族の多様性 (文化・慣習・健康観・価値観・生きる力) を理解し、生活している人として捉え、説明できる
3. 看護の対象となる「地域で生活する人々」を理解できる

### 🏠 カリキュラム(令和6年)

#### 第1回・第2回

内容：「地域包括支援システム」「地域共生社会」「家族」「文化とは」について調べる

実施方法：講義・グループワーク

#### 第3回・第4回・第5回

内容：授業に関連するコンセプトについて調べる (26.家族×32.トラウマなど)

実施方法：講義・グループワーク

#### 第6回・第7回・第8回・第9回・第10回

内容：泉州地域の特徴を調べる  
 新聞を制作するためのインタビューガイドの作成  
 フィールドワークによる実地調査(泉州地域を歩く)

実施方法：講義・グループワーク  
 フィールドワーク

#### 第11回・第12回

内容：報告会(各グループで調べた市町村について発表する)

実施方法：グループワーク

#### 第13回・第14回

内容：新聞作成(泉州地域についてまとめる)

実施方法：報告

#### 第15回

内容：筆記試験・レポート

実施方法：試験

## 🏠 授業を受けて

### グループワークの感想

- ・毎時間、グループ編成が異なるため、様々な人の意見を聞くことができた。
- ・座学よりも楽しく授業を受けることができた。
- ・普段、話さない人と話すことができ、新たな視点を見つけることができた。

### フィールドワークの感想

- ・学校の名を背負って、行っているため責任感が芽生えた。
- ・就職する地域の本当の声を聞くことができた。
- ・初対面の人に話しかける難しさを知った。

## 🏠 今後への繋がり

この授業を受けて、1年生は7月から「暮らしを知る実習」を行う





# 「本格的な災害救護訓練が実践で学べる魅力あるカリキュラムを目指して」



《カテゴリー》 ①教育課程

《学校概要》 学校名：姫路赤十字看護専門学校 所在地：兵庫県姫路市下手野1丁目12番2号

課程名：3年課程 1学年定員数：40名 修業年限：3年

- 設置主体の看護師等養成の歴史**：看護師養成事業には120年以上の歴史があり、戦時救護に携わる救護看護婦の養成に始まり、その後、災害救護が養成目的に加わった。国内で発生する自然災害、海外での飢餓や紛争などにより、赤十字看護師が国内外で活躍することが期待されている。そのため、赤十字看護師として赤十字の精神と技術を身につけ、国内の臨床現場はもちろん、国内の災害救護、国際救援活動で力を発揮して活躍できる人材の育成に取り組んでいる。
- カリキュラムの特色**：日本赤十字社兵庫県支部、設置医療施設の協力のもと、実際の資機材を使用した災害救護訓練を実施。災害救護活動に必要な知識・技術を実践で学び身につけている。

## 1年次

### 「赤十字活動論」「災害医療論」

赤十字救急法指導員の資格を持つ教員が赤十字救急法講習を開催し学生全員が赤十字救急法救急員の資格を取得している。トラウマメイクの演習後、災害救護訓練で被災・傷病者役を経験することで、被災者の心理状況の理解及び、救護者に求められる姿勢を学んでいる。

## 2年次

### 「災害看護学」

1年次の傷病者役の経験を活かし2年次では救護班を編成した災害救護訓練を実施。赤十字救急法を駆使して傷病者の救護を行っている。各トリアージエリア、役割ごとに振り返りを行い、全体で共有することで災害救護に必要な知識・技術を深化させている。

## 3年次

### 「異文化論・

### グローバルヘルス」

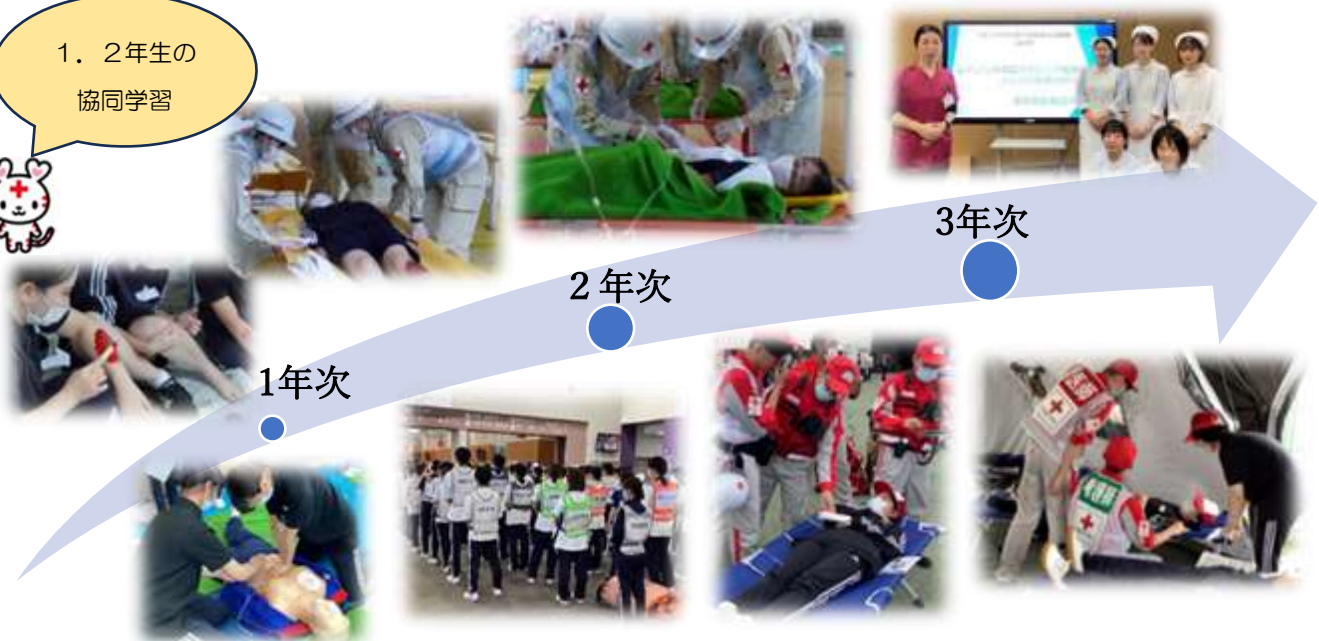
設置医療施設所属の、国際救援活動で活躍されている看護師による講義や講演を通して国際救援活動について学びを深めている。

医学英語検定や看護英語試験にもチャレンジ！



**課外活動**：日本赤十字社近畿ブロック合同災害救護訓練や災害拠点病院研修にも被災・傷病者役として参加。救護班スタッフから、救護者としての救護技術・態度、赤十字の役割を学んでいる。

1. 2年生の協同学習





# 播磨看護専門学校事業継続計画（BCP）の策定

カテゴリ：⑤ その他（危機管理）



## 【学校概要】

学校名：播磨内陸医務事業組合立播磨看護専門学校  
所在地：兵庫県加東市家原 812 番地 1  
課程名：3年課程、1学年定員数：35名、修業年限：3年

## 【背景】

文部科学省より「学校等における防災体制の充実に  
関する基本的な考え方」が示されており、南海トラフ  
地震など大規模災害や感染症の蔓延に対し、危機管理  
を講じた学校運営が求められている。

《学校保健安全法第29条第1項》

## 【方法】

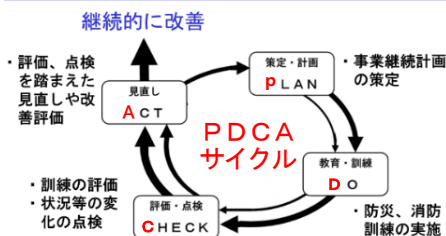
事業継続計画策定検討会を立ち上げ、事務と教員の  
両方の立場からそれぞれ必要な事項を検討した。

また、既に策定している教育機関や近隣の災害拠点  
病院のBCPを参考に、当校独自のBCPを策定した。

## 【内容】

- (1) 基本方針・目標
- (2) 被害想定
- (3) 災害時の対応体制
- (4) 災害時の行動
- (5) 重要業務・災害時優先業務
- (6) **事前対策**
- (7) 事業継続マネジメント（BCM）

### 事業継続マネジメント(BCM)



## 【目的】

教育機関として、教員、学生及び来訪者の安全確保、  
学生への教育確保・継続、入学試験・入学式・卒業式  
並びに良好な教育環境の確保など、教育事業の継続又  
は速やかな再開を目指し、播磨看護専門学校事業継続  
計画（BCP）を策定する。

### 1 授業の休講・再開

- ・加東市内において**震度5強以上の地震**の場合 等

### 2 臨地実習授業

- ・臨地実習先が災害等により実習継続が困難な状況  
が発生した場合、**臨地実習病院の指示に従う**。
- ・実習の一環として、災害対応の協力依頼があった  
場合、**実習予定時間内において協力**する。

### 3 入学試験又は入学式・卒業式等

- ・実施場所の安全が確認されるまで中断又は延期

### 4 感染対策

- ・感染症を、**各学年に5人以上又は全学年15人以上**  
発生した場合、授業はモニターで行う。

### 5 教職員又は外部講師の被災

## 【再認識】

- ・教育機関のあり方や臨地実習病院との関係
- ・情報の伝達方法（安否確認方法）
- ・職員の通勤手段と通勤時間
- ・重要業務と災害時優先業務の選別
- ・災害時の初期行動

## 【学校自慢】

地域に根差した学校である播磨看護専門学校は、地域の災害リスク状況を再確認できたことで、より郷土愛を確認できた。そして、看護基礎教育機関として、看護教育を受け続ける機会を護ることに繋がる。それが学生を護り、医療現場を護り、郷土を護ることになると実感できた。

## 【今後】

BCPは、策定過程が大事であり、策定完了が終了ではなく、定期的な訓練の実施による評価・点検を行い、それに基づく見直し・改善を継続する必要がある。いわゆる事業継続マネジメント（BCM）が重要である。

**今後、定期的に訓練を実施し、評価、見直しを継続して、職員や学生の安全確保、教育確保などに努める。**

年1回の消防訓練（2024. 4. 24）



消防法第8条及びBCPに基づき、消防職員の指導の下、消火訓練と避難訓練（雨天のため食堂へ避難）を実施し、講義を受けた。

## 《学生の声》

- ・火災を想定した避難だけでなく、地震も想定した避難が必要である。定期的な訓練が大切であると感じた。

## 《職員の声》

- ・災害を想定して、自宅から学校までの8kmを徒歩で出勤しました。自動車とは違う景色で、徒歩での通勤経路、時間を確認できた。